

令和7年度 北海道医師会賞・北海道知事賞 受賞者業績紹介

本誌9月（第1284）号にてご報告いたしましたとおり、10月4日（土）午後3時より、札幌グランドホテルにおいて、北海道医師会賞・北海道知事賞贈呈式が挙行されます。

ここに受賞された方々のご業績を紹介いたしますとともに、受賞者各位の一層のご活躍を祈念いたします。

—学術部—

令和7年度 北海道医師会賞・北海道知事賞受賞者

| 医師会名 | 職氏名 | 研究（業績）題名 |
|--------|---|--|
| 札幌市 | JA北海道厚生連札幌厚生病院 院長 <small>ひげ 修平</small> | ウイルス性肝炎の診断・治療における臨床的研究 |
| 北海道大学 | 北海道大学総合イノベーション創発 機構ワクチン研究開発拠点 拠点長・教授 <small>さわ 洋文</small> | 人獣共通感染症の克服に向けた研究 |
| | 北海道大学大学院医学研究院 小児科学教室 教授 <small>まな べ あつ 淳</small> | 北海道における小児がんの研究・診療体制の確立 |
| 札幌医科大学 | 札幌医科大学医学部附属研究所 再生医学研究所神経再生医療学部門 教授 <small>ほん む 修</small> | 脊髄損傷患者に対する新しい再生医療の開発と実用化 |
| | 札幌医科大学医学部医学科 医療安全・病院管理学講座 教授 <small>はし もと あき よし 橋 本 暁 佳</small> | 画像診断を用いた循環器疾患の心事故予測に関する研究と医療安全推進のための活動 |
| 旭川医科大学 | 旭川医科大学地域共生医育センター センター長・教授 <small>まさき の ゆう 一 牧 野 雄 一</small> | 低酸素応答性転写因子群による生体機能調節機構の解明 |

低酸素応答性転写因子群による生体機能調節機構の解明



旭川医科大学地域共生医育センター

センター長・教授 まき の ゆう いち
牧 野 雄 一

牧野雄一教授は、平成4年に旭川医科大学を卒業後、内科学第二講座（現内科学講座内分泌・代謝・膠原病内科学分野）に入局し、代謝・内分泌疾患、免疫疾患に関する診療・研究・教育に従事した。旭川医科大学大学院修了後、スウェーデン王立カロリンスカ研究所に留学し、細胞外環境による転写因子機能制御と疾患の関わりについて知見を広げた。特に低酸素応答性転写因子HIF-1 α の制御機構に関する一連の先駆的研究では、低酸素状態における細胞応答の精緻なメカニズムを解明し、生体恒常性の維持の他、腫瘍、炎症性疾患、代謝性疾患など多様な病態におけるHIFの役割を常に臨床応用を見据えて

体系的に示した。中でも、内因性HIF抑制分子であるIPAS/HIF-3 α の発見は、生体の低酸素応答におけるネガティブフィードバック制御機構のモデルを世界で初めて提示し、低酸素応答研究分野の進展に多大な貢献を果たした。帰国後、東京大学医科学研究所助手、科学技術振興機構さきがけ研究員などを経て旭川医科大学内科学講座病態代謝内科学分野に帰局し、若手研究者の育成にも積極的に取り組んだ。令和2年、旭川医科大学地域共生医育センター教授に就任した後も、IPAS/HIF-3 α の独創的研究の継続を通じて、次世代の医学・生物学研究の発展に大きく寄与している。

一方、旭川医科大学地域共生医育センター長として、「北海道の医療課題を解決するマルチタスク型地域医療医育成体制の構築」事業を推進し、旭川医科大学による地域医療貢献・地域医療教育の新展開にも貢献している。